

「山月記」の内容予習

第1段落（二六・1～二七・5）

- 隴西の李徴は、（ ）で才能が抜群に優れていた。若くして官吏登用試験に合格し、（ ）に任じられた。しかし、官吏となった李徴は、（ ）な性格で、無能な上司に仕えることを嫌い辞職する。故郷で（ ）を目指すが、文名は容易に揚がらず、生活に窮し、再び役人になる。しかし昔、鈍物として相手にもしなかった連中から命令されることに（ ）を傷つけられ、焦りから発狂に至る。ある夜半、寢床から起き上がると、（ ）の中へ駆け出し、二度と戻ってこなかった。

第2段落（二七・6～二九・1）

- 監察御使の袁慄は、旅の途中で（ ）が出るという話を聞く。気にせずに出発した袁慄は（ ）に出くわすが、それは（ ）と化した（ ）だった。旧友に気づいた（ ）は身を翻して草むらに隠れると、忍び泣きながら、自分が（ ）になった経緯を語る。

第3段落（二九・2～三一・15）

- 虎になった李徴は、一日のうち数時間は（ ）の心が還ってくるが、その時間はだんだん短くなり、やがて（ ）の心を保ちながら、しかも死ぬことさえできない複雑な心の葛藤を語り、いつそ完全に（ ）になってしまった方が（ ）だと語る。

第4段落 (三一・16～三三・15)

李徴は心を狂わせてまで () してきた詩を後代に伝えたいとい
う望みを語り、およそ () 編ほどを袁慄の前で朗誦する。その視
は立派ではあるが、どこか微妙な点で () と袁慄は感じる。さ
らに李徴は虎になった現在の心境を () に詠む。

第5段落 (三四・1～三六・2)

李徴は「臆病な () と「 () な羞恥心」が結果
として自分を世と人から遠ざけ、 () を飼いふとらせ、
自分をその性情にふさわしい () に変えてしまったという自己
分析を語る。そして、 () に化してしまった悲しみを誰にも
伝えられないという嘆きを () に訴える。

第6段落 (三六・3～三七・5)

李徴は、自分が、飢え凍えようとする () (よりも) ()
の方を気にかけているような人間であることが、変身の原因であると反省する。そし
て袁慄に自分はすでに () (と伝えてほしいと頼み、さらに) ()
() のめんどろを見てほしいと依頼する。

第7段落 (三七・6～三七・12)

李徴はあさましい獣に変身した自ら () を袁慄に見せ、悲しげに
() して草むらに躍り入る。

①冒頭部で李徴はどのような性格の人物として描かれているか、(1)それが書かれた部分を抜き出し、(2)そこからわかる人物像を説明しなさい。

(1)

(2)

②「いくばくなく官を退いた」(二六・3)とあるが、李徴はなぜ役人を辞めたのか、二つに分けて説明しなさい。

③「節を屈して」(二六・9)とあるが、「ここで」「節」とはどういうことを指すのか、説明しなさい。

④「彼は快々として楽しまず、狂悖の性はいよいよ抑えがたくなった。」(二六・12)とあるが、そうなった理由を二つに分けて説明せよ。

⑤ 「残月の光を頼りに」(二七・10)という部分から、どのような様子がかかるか、それを説明した次の文の空欄に適切な語句を入れなさい。

() が近いとはいえ、() はまだ明けておら

ず、辺りは真つ暗である様子。

⑥ 「危ないところだった。」(二七・13)とは、誰が、何をしそうになったということか、説明しなさい。

⑦ 「見えざる声」(二八・14)とはどういう状況を表しているのか、説明しなさい。

⑧ 「自分」ではなく「我々」(三〇・5)とあるのはなぜか、説明しなさい。

⑨ 「自分の中の人間」(三〇・7)とあるが、この「人間」はここではどのような意味で用いられているか、答えなさい。

⑩ 「これは恐ろしいことだ。」(三一・1)というのはなぜか、説明しなさい。

⑪「おそらく、その方が、おれはしあわせになれるだろう。」(三一・八)と李徴が考える理由を説明しなさい。

⑫「これを我がために伝録していただきたいのだ。」(三二・三)とあるが、李徴が虎になっても自分の詩を後代に伝えたいと考えたのはどうしてか、説明しなさい。

⑬「進んで師に就いたり、求めて詩友と交わって切磋琢磨に努めたりすることをしなかった。」のはなぜか、説明しなさい。

⑭「我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。」(三四・八)とあるが、(1)「臆病な自尊心」、(2)「尊大な羞恥心」とはそれぞれどのようなものか、説明しなさい。

(1)

(2)

⑮ 「それを専一に磨いたがために、」(三五・4)の「それ」の指す内容を、本文中から抜き出しなさい。

⑯ 「虎と成り果てた今、おれはようやくそれに気がついた。」(三五・5)とあるが、「それ」が指す内容をまとめなさい。

⑰ 「おれの空費された過去」(三五・9)とはどのようなものか、説明しなさい。

⑱ 「胸を焼く悲しみ」(三五・10)の内容を答えなさい。

⑲ 「おれの毛皮のぬれたのは、夜露のためばかりではない。」(三五・15)とはどういうことを表しているか、説明しなさい。

⑳ 「月を仰いで、二声三声咆哮した」(三七・二三)とあるが、この虎の姿は李徴のどのような気持ちを表したのか、説明しなさい。

㉑ 本文における李徴の告白の中で、「自分」と「おれ」という二つの表現が使い分けられているが、それぞれどのような場合に用いられているのか、説明しなさい。

「自分」

「おれ」